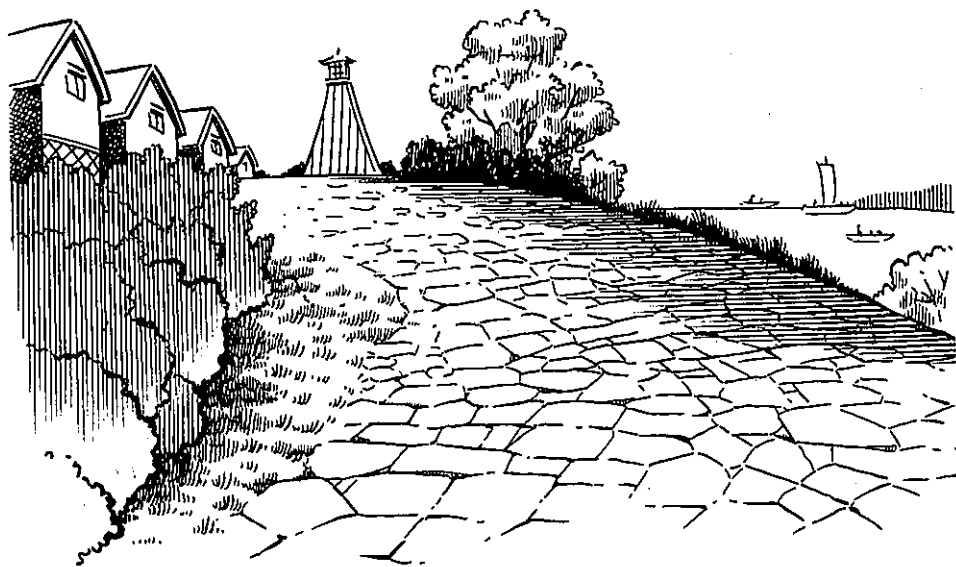
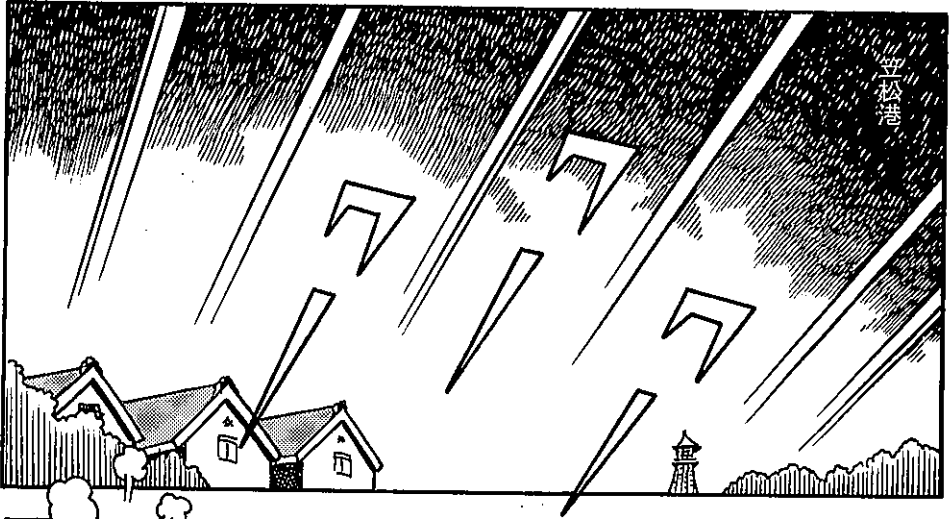


第一章 門 出——大垣時代





なんだとう？
てめえのほうこそ
よそ見しやがって
このトウヘンボク

なにおうっ



コンチクシヨウ
どこ見て走って
やがる！

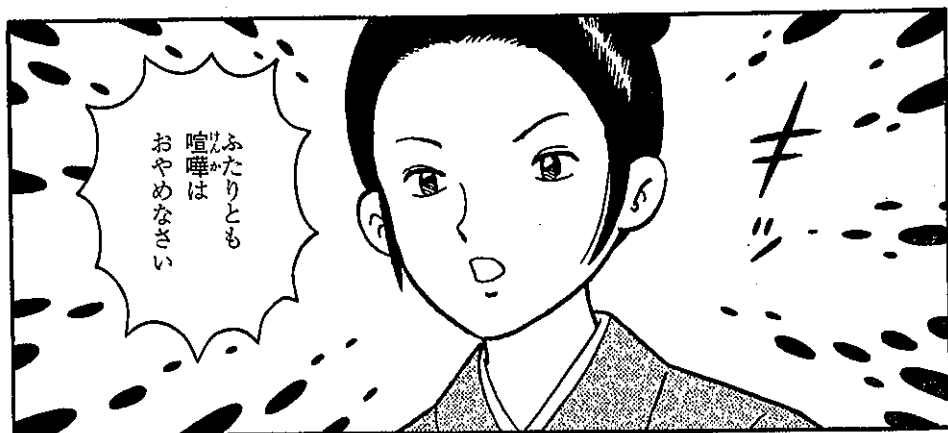
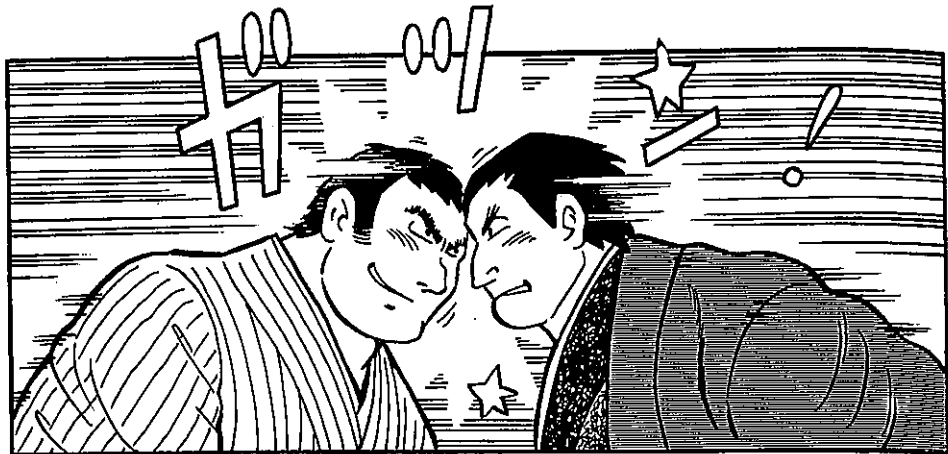
気をつける
このたわけっ！！



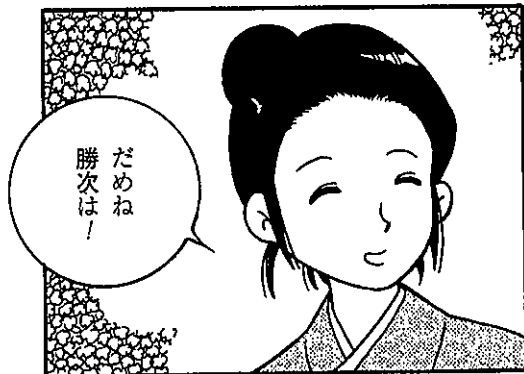
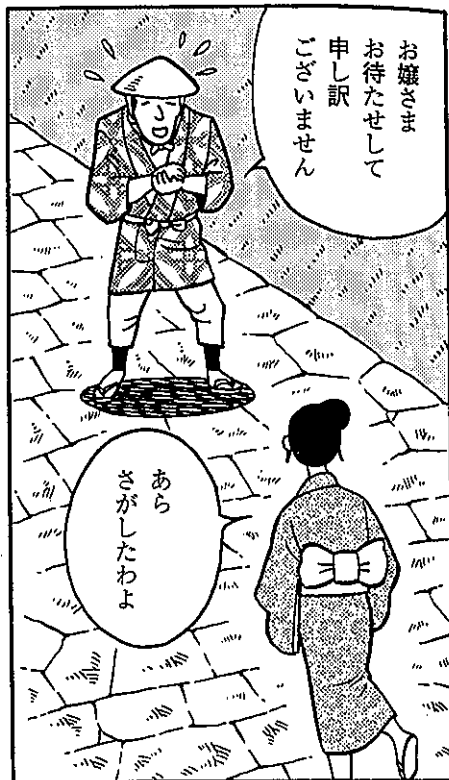
港の男なら
腕っ節で
けりつけやがれいっ

どっちも
負けるなよ！

やれ
やれいっ





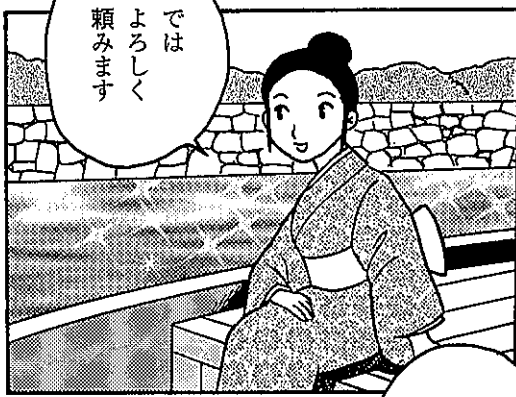




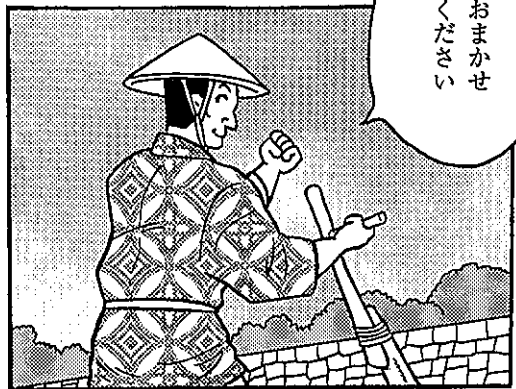
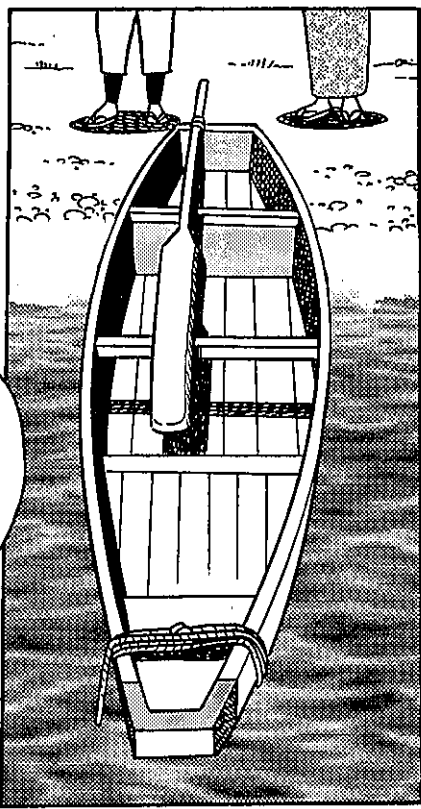
こちらです

大垣に
いらっしゃるん
でしたか

はい
そうでした



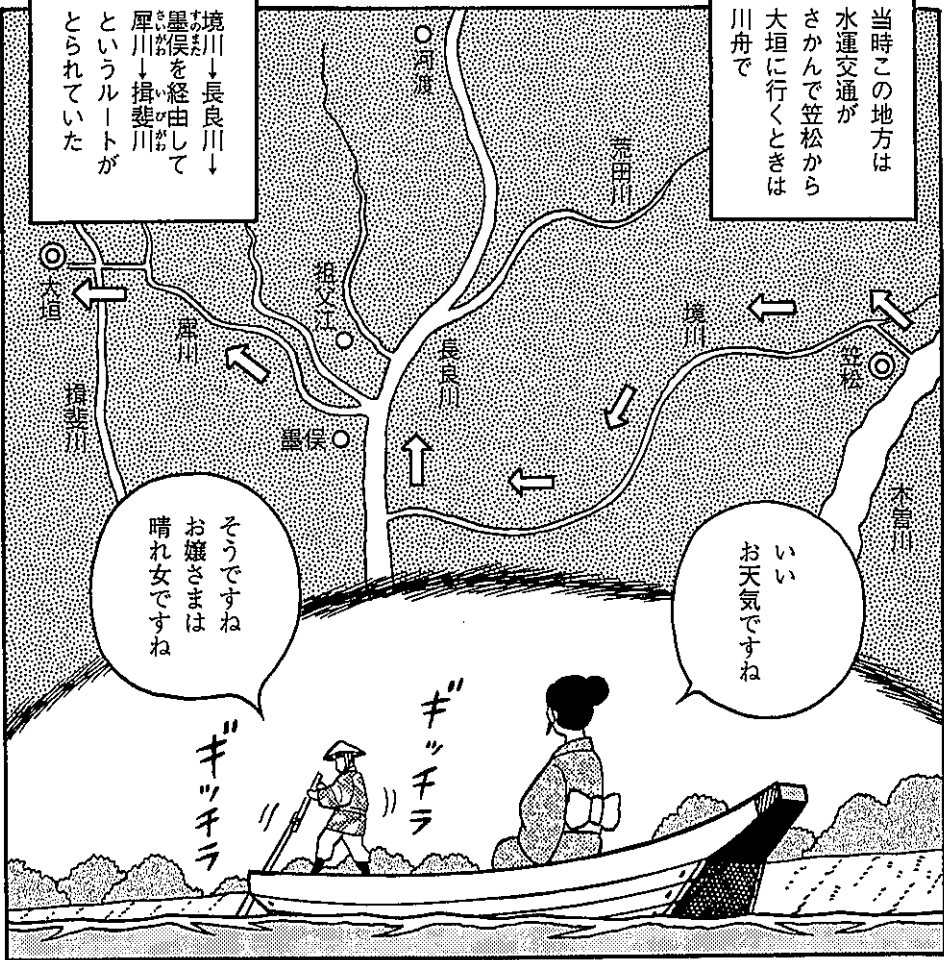
では
よろしく
頼みます



おまかせ
ください

当時この地方は
水運交通が
さかんで笠松から
大垣に行くときは
川舟で

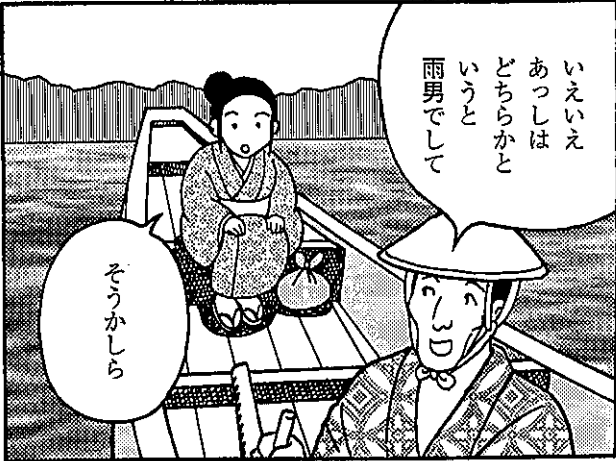
境川→長良川→
墨俣を経由して
犀川→揖斐川
というルートが
とられていた



そうですね
お嬢さまは
晴れ女ですね

いい
お天気ですね

ギツキラ

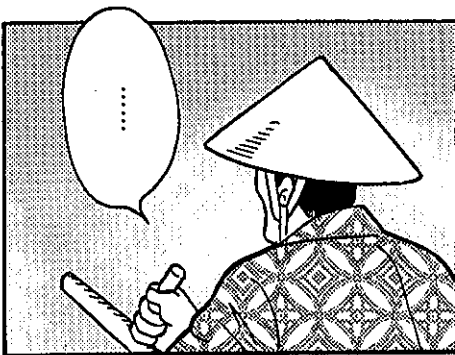
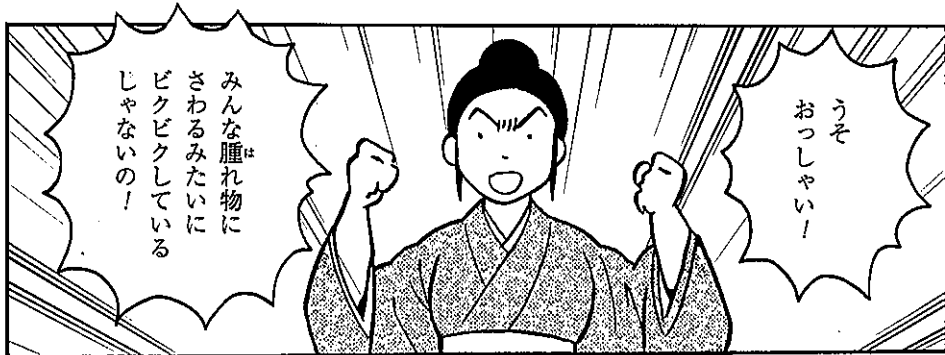


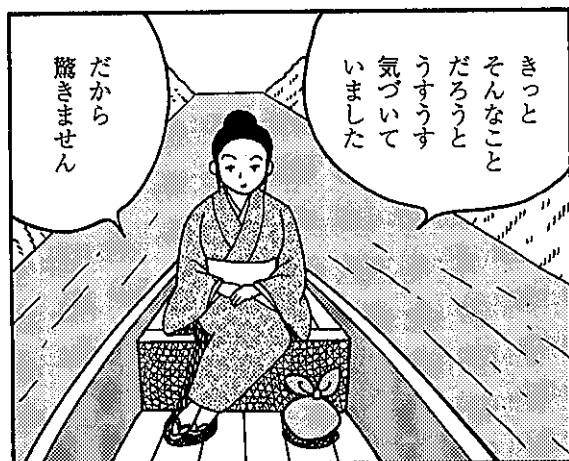
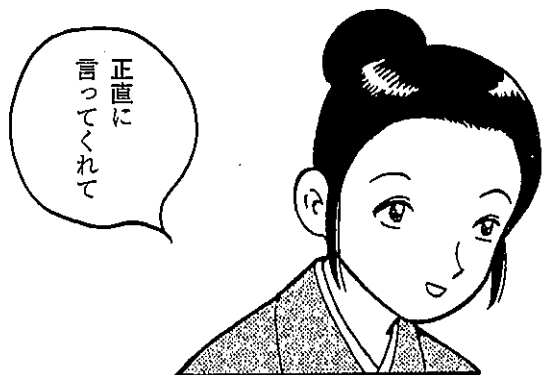
いえいえ
あつしは
どちらかと
いうと
雨男でして

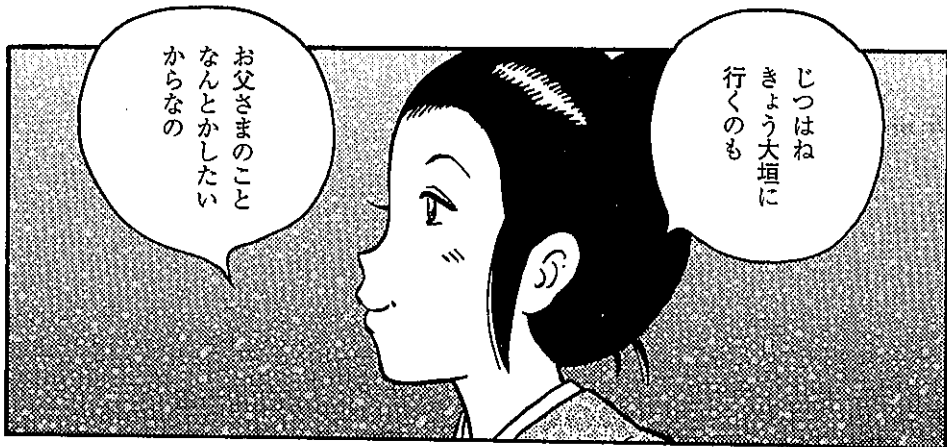
そうかしら

勝次が
晴れ男
なんじゃない
の？







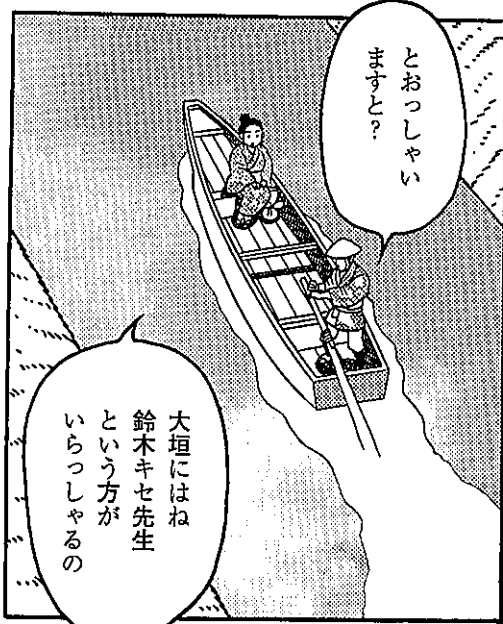


じつはね
きょう大垣に
行くのも

お父さまのこと
なんとかしたい
からの



有名な
法華經行者よ



とおっしゃい
ますかッ

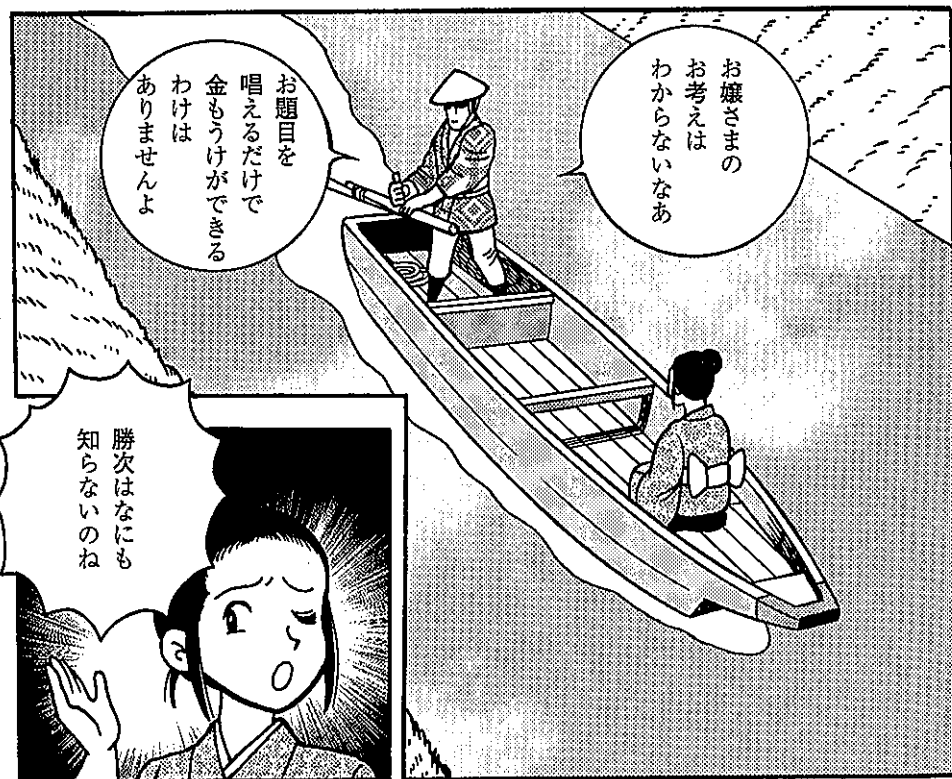
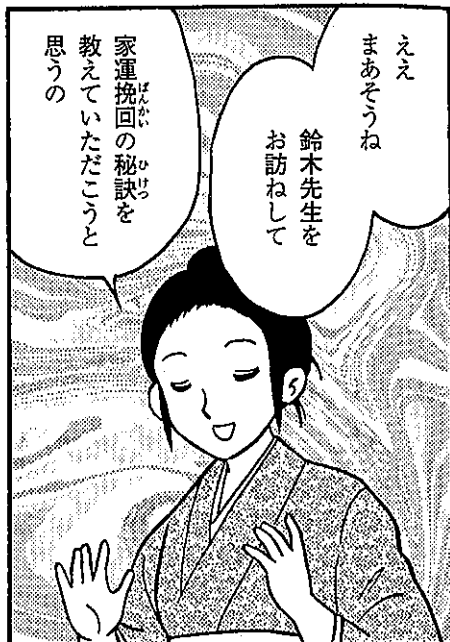
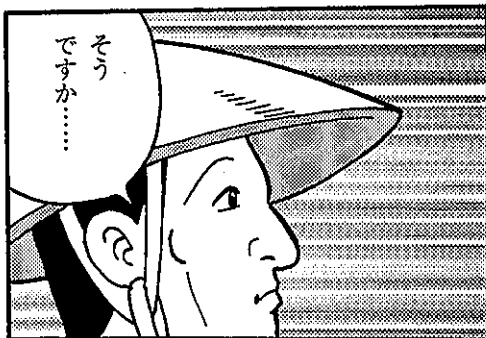
大垣にはね
鈴木キセ先生
という方が
いらっしゃるの

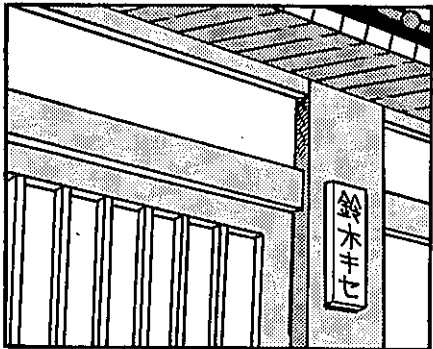


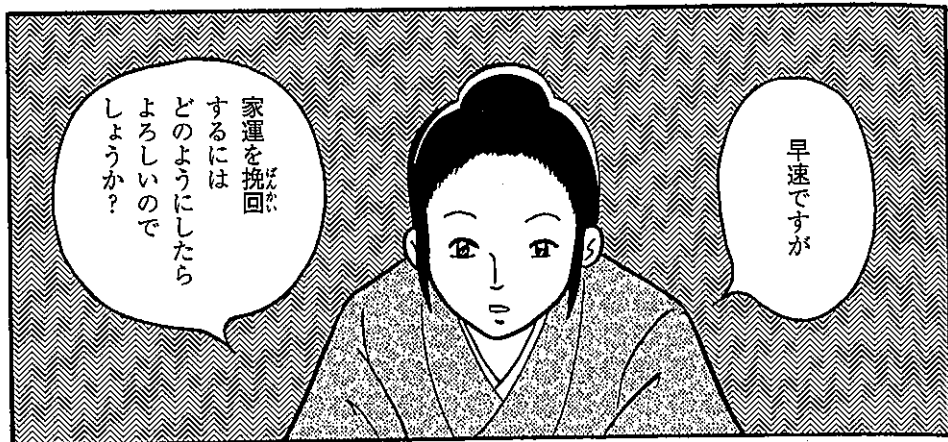
法華經の
行者?

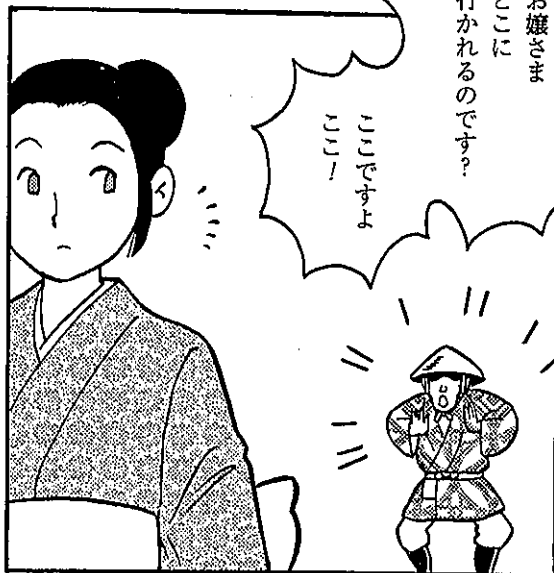
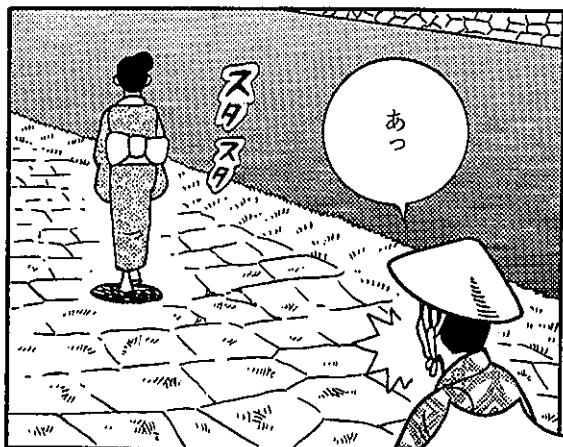
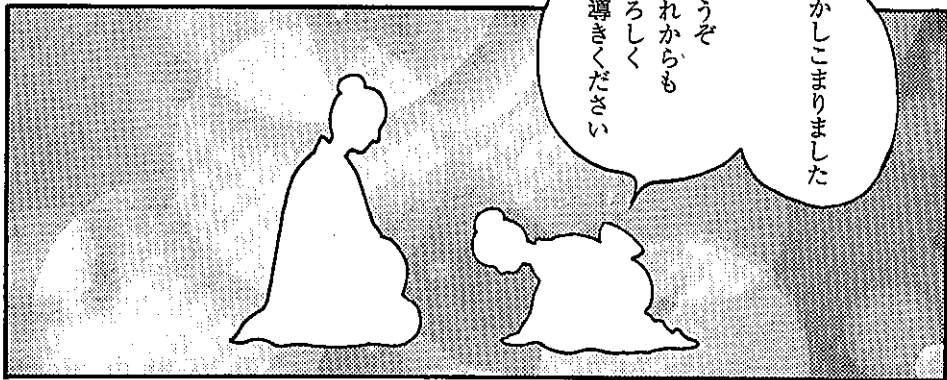
法華經つてのは
あの

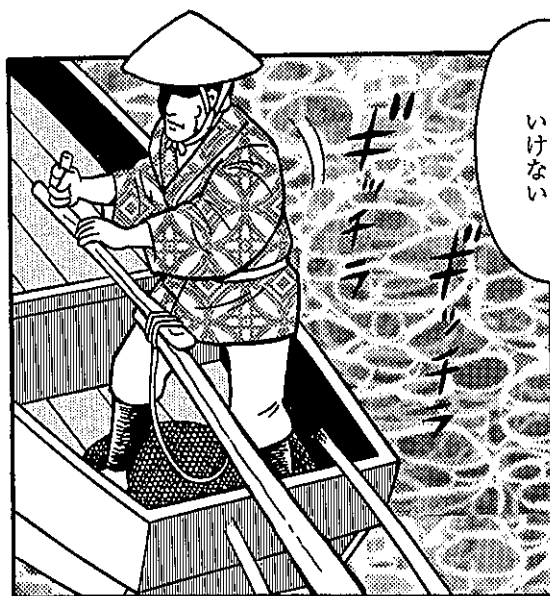
ナンミョー
ホーレンゲキョー
つてやつですネ



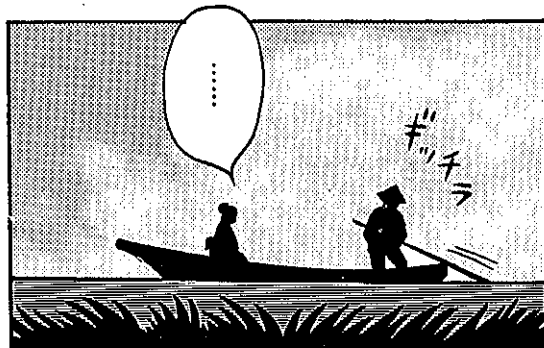




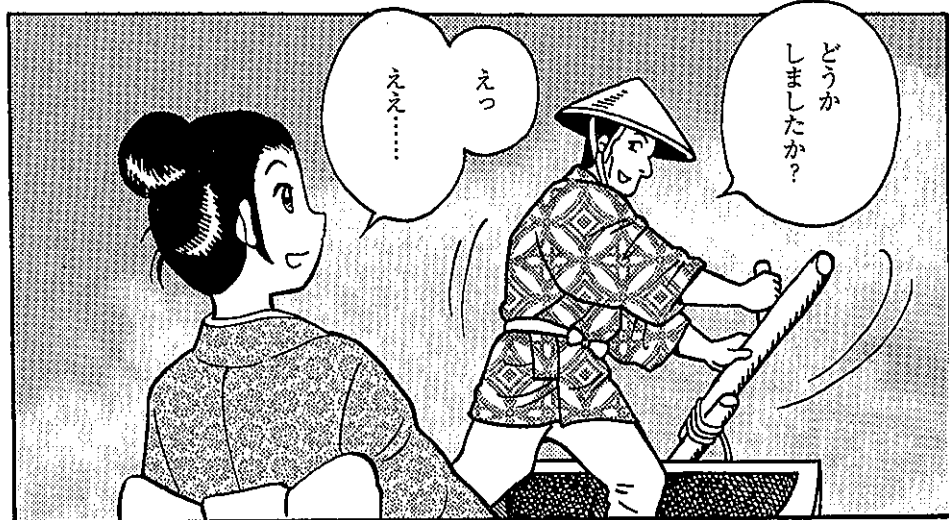




あら！
いけない



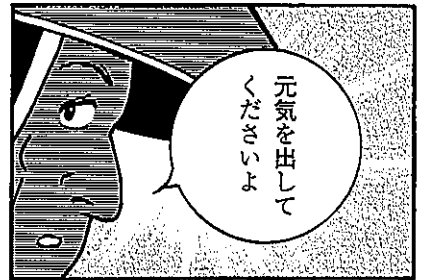
……



どうか
しましたか？

えっ

ええ……



毎日たゆまずに
「南無妙法蓮華經」
と唱題すれば
神通力を得られると
教わったわ

そう、いまからわたし
一生懸命に
唱題します

南無妙法蓮華經
南無妙法蓮華經
南無妙法蓮華經
南無妙法蓮華經

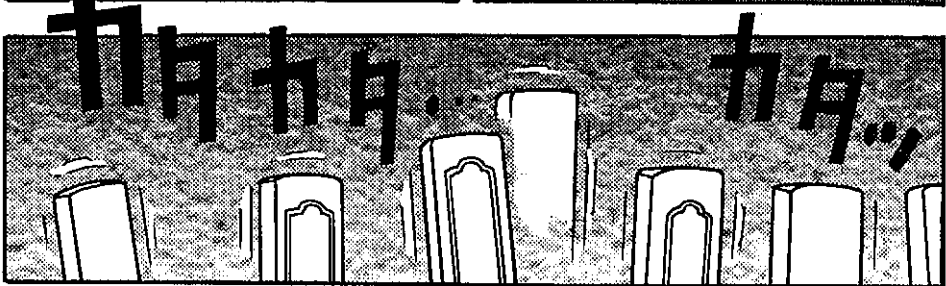
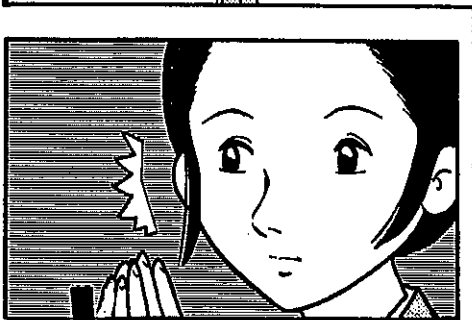


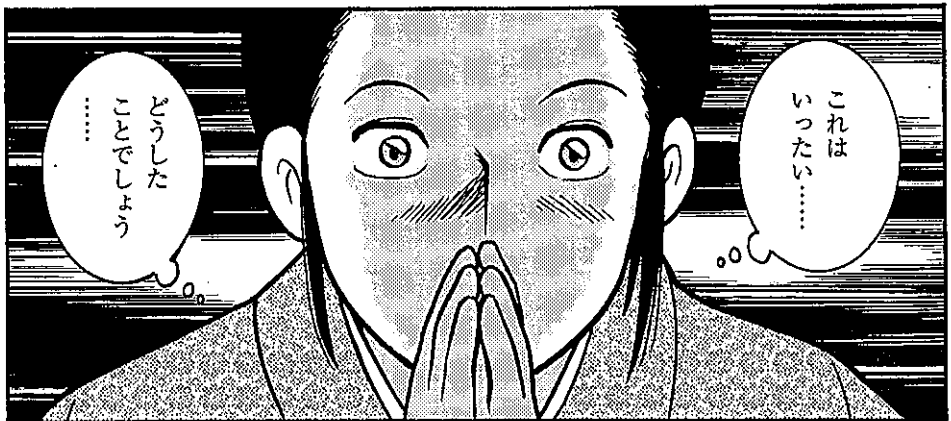
南無妙法蓮華經

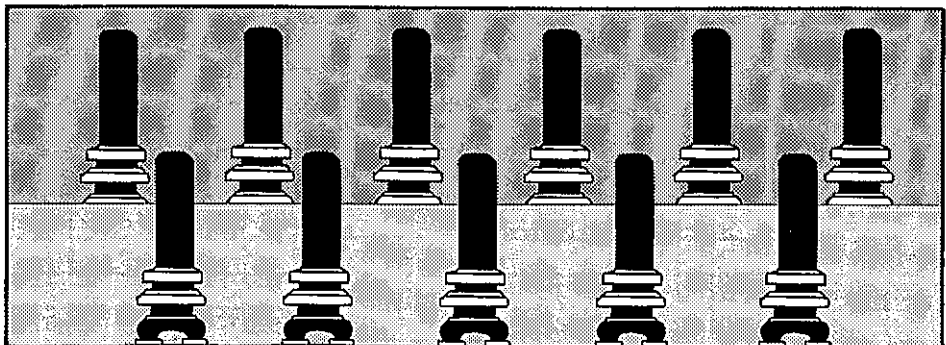
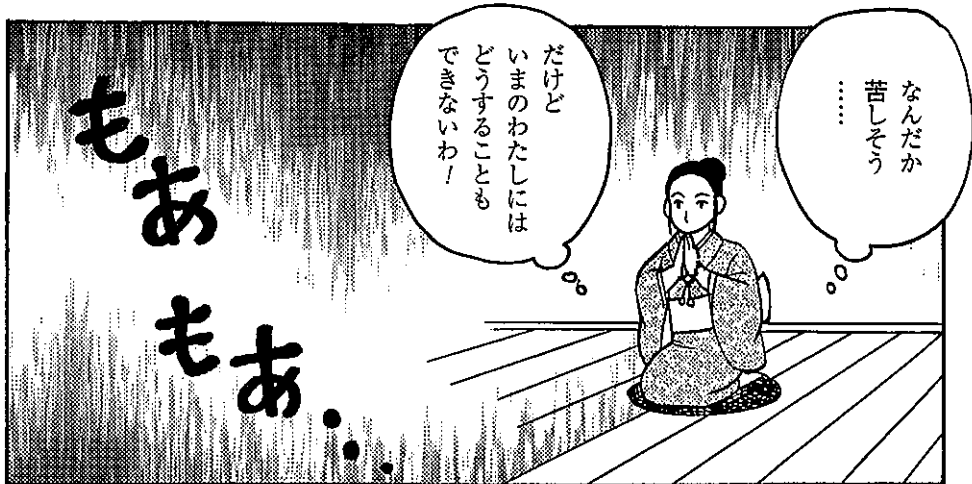
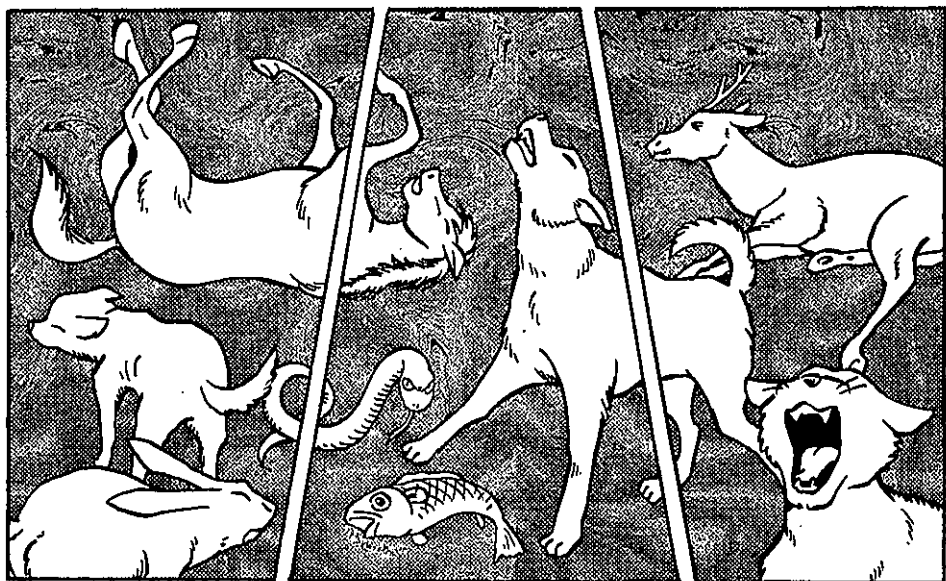
南無妙法蓮華經



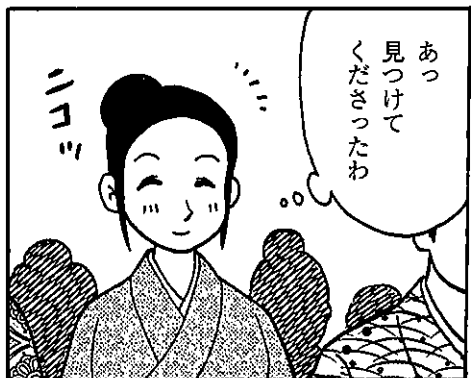
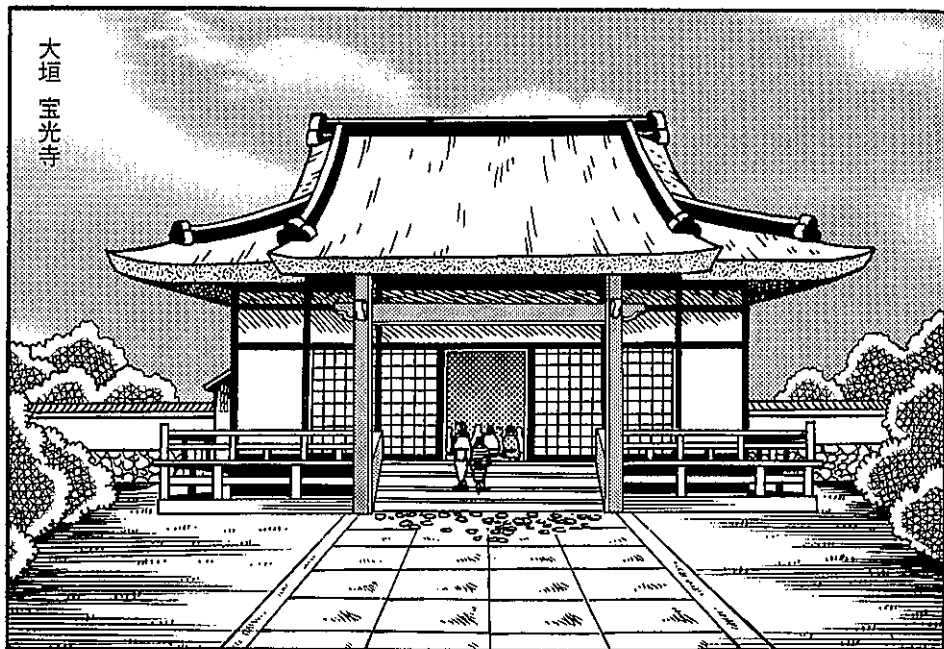
教祖さまは
笠松にもとると
善提寺の本堂で
一心に妙法を唱えた







大垣 宝光寺





座敷で
少しお話し
しましょう

すばらしい
法話を
ありがとうございました

經典に
「爪土の譬え」と呼ばれるお話が
あります

じつは先日
妙法を唱えて
おりますと
位牌が動物に
変わるのを
目の当たりにして
たいそう
びっくり
しました



そのなかで
人間として
生を享ける者は
大地の土に比べれば
爪の上の土のように
少ないといふことです

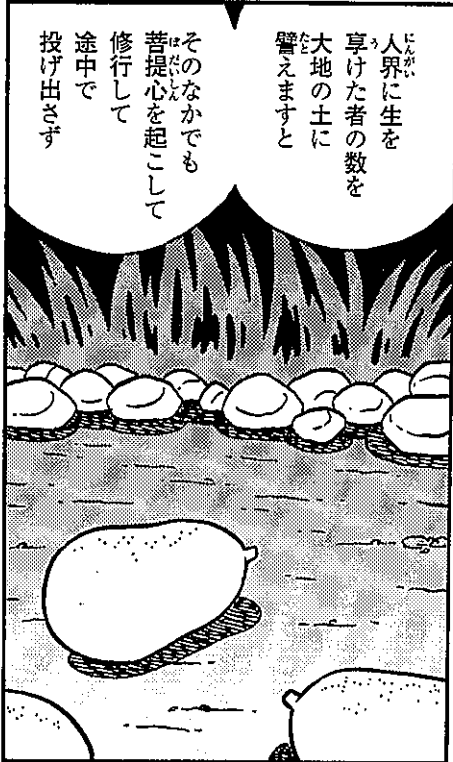
はい
簡単に言いますと
靈魂は無数に
ありますが

「爪土の譬え」
ですか？





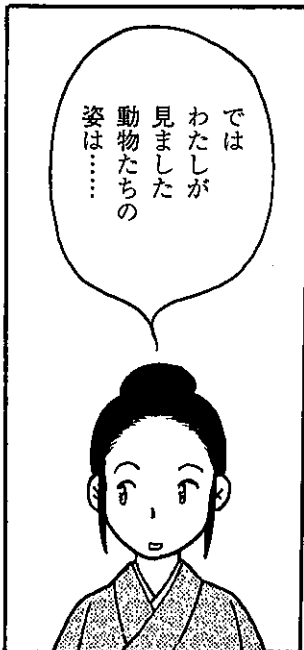
もう少し
くわしく
お教えください



人界に生を
享けた者の数を
大地の土に
譬えますと
そのなかでも
菩提心を起こして
修行して
途中で
投げ出さず



そうね



では
わたしが
見ました
動物たちの
姿は……



仏界・菩薩界



畜生・餓鬼・地獄

やがて菩薩界・仏界
にまで至る者は
やはり爪の上の
土の数ほど
まれなのです



せっかく
人間界に生を享けても
妙法の力を信ずる
ことがなかったばかりに
人間としての
生を終えたあと

畜生界などに
生まれ変わり
長い時間をすつと
苦しみとおさなければ
ならない
靈魂だったのでしよう

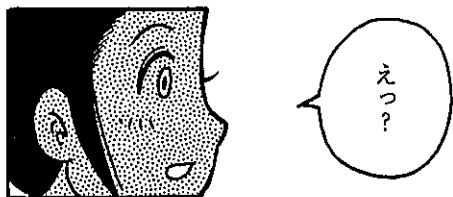


しかし
そのような光景を
ご覧になった
ということとは

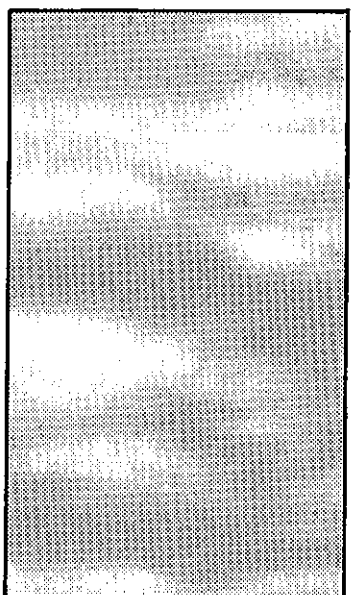
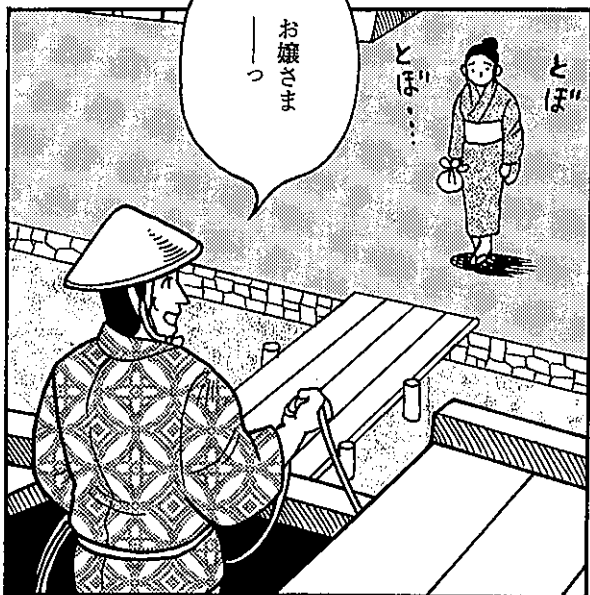
あなたが
天眼通という
神通力を
身につけた
証拠ですよ



そう
なんですか？

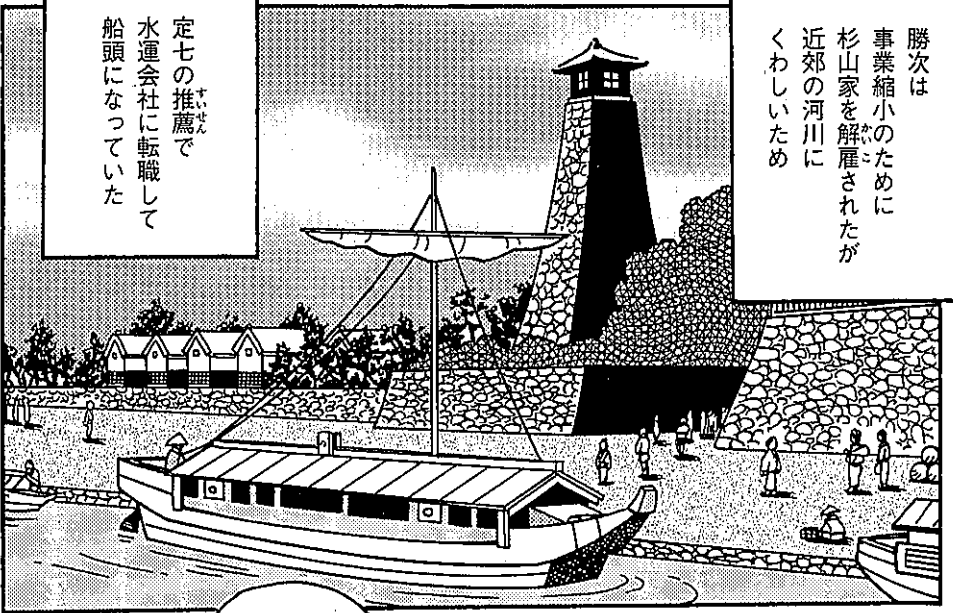


えっ？



勝次は
事業縮小のために
杉山家を解雇されたが
近郊の河川に
くわしいため

定七の推薦で
水運会社に転職して
船頭になっていた

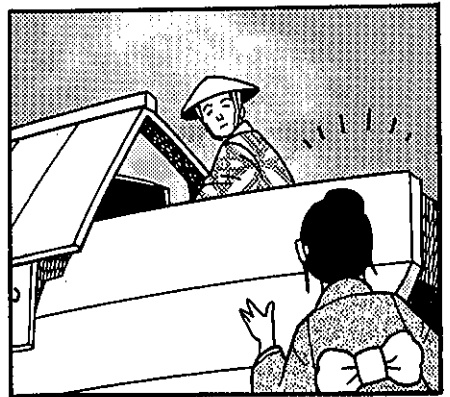


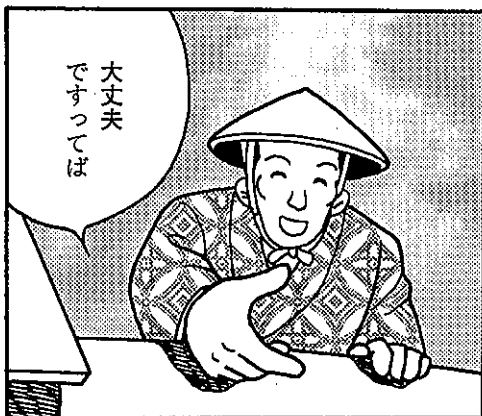
勝次！
きょうはね
先生から
こんなお話を
聞いたわ

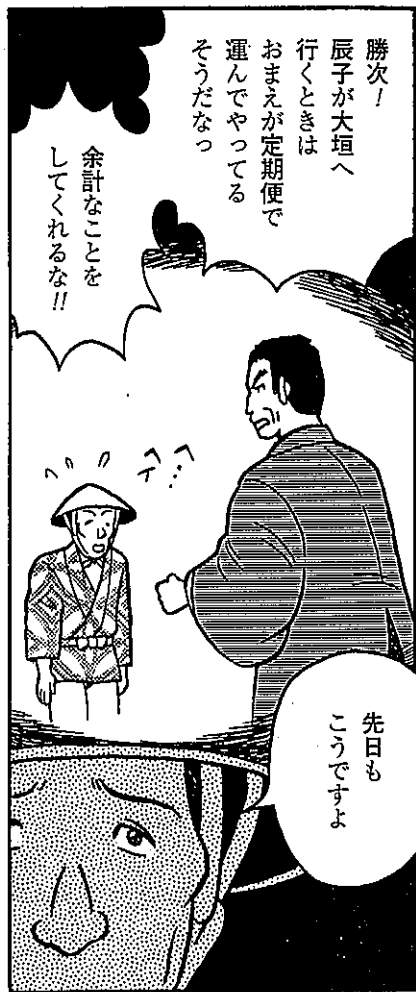
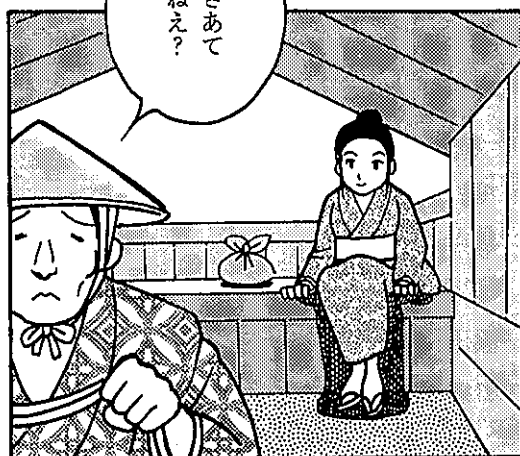


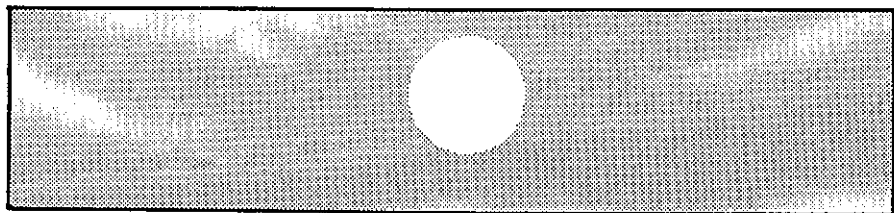
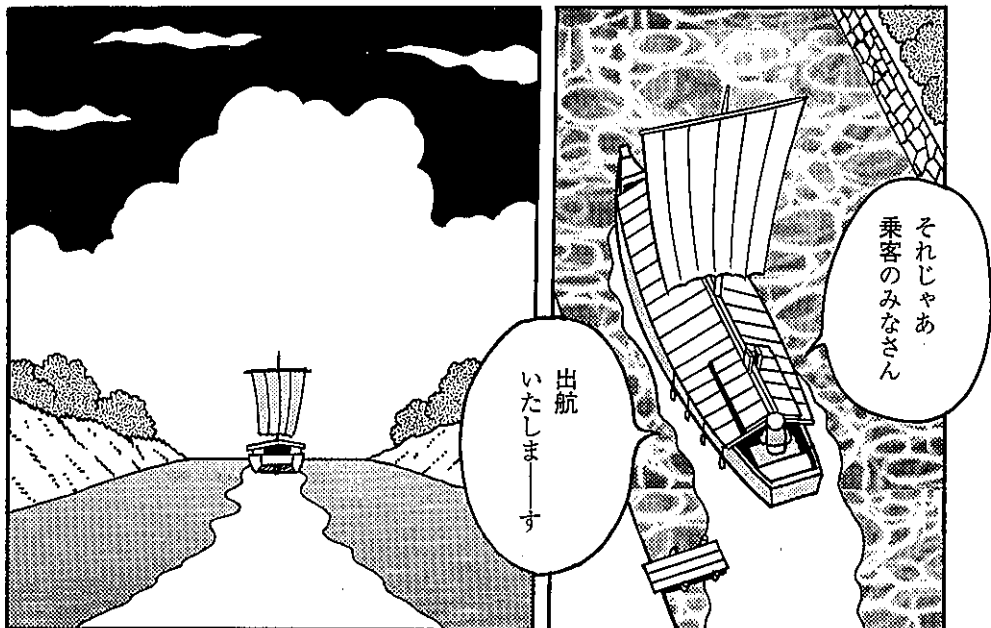
そうですね
神通力をひとつ
免許皆伝
というわけですか

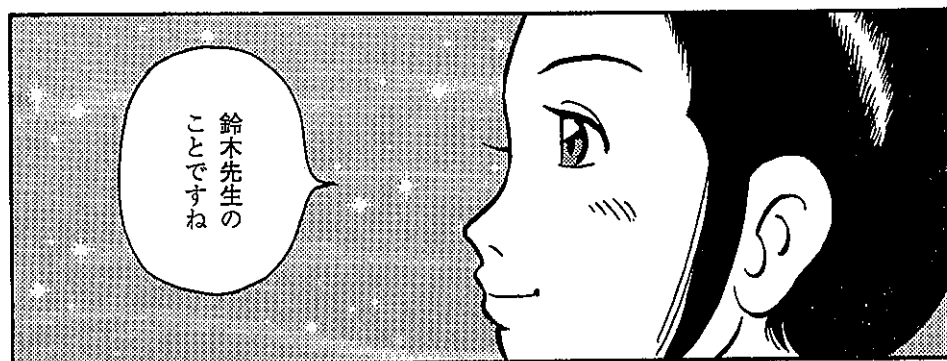
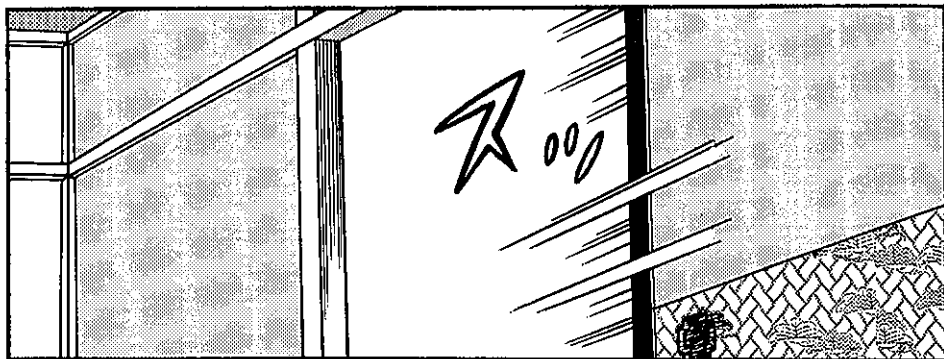
おめでとう
ございます







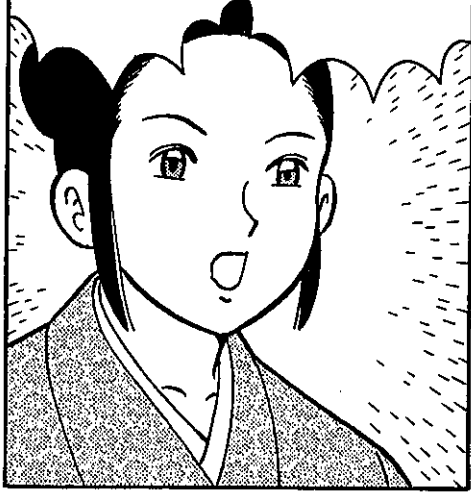




まあ
そういう
ことだ



先生について
修行して
家運を挽回
するために
徳を積んで
いるんです
どうか
お父さまも
わたしのよう
に妙法を唱
えて徳を積
んでください



おまえは
いったいなにを
しているのかと
気になってな



そういうのが
徳なのでは
ありません



わしは
わしなりに
きちんと
徳を積んで
おるわい
菩提寺に毎年
結構な額の布施を
しておるぞ



わしは事業に
専念せねば
ならんからな!





お父さま！
事業の発展にも
きつとつながります

ほんの少しの時間で
よろしいですから
妙法みょうほうを唱えて
みてください



わかった！
考えてみよう

あれ以来
わしはおまえに
事業の才があると
見込んでいるのだ

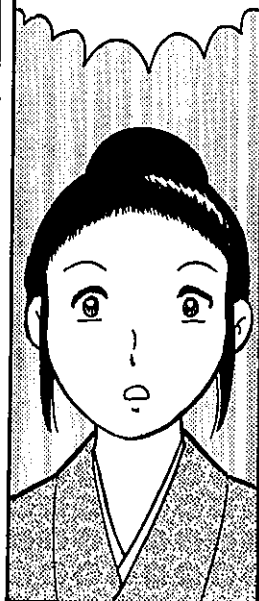
いそがしい
だろうが
少し家業を
手伝って
くれないか？



ところで
辰は以前
笠松港で
喧嘩けんかを止めた
ことが
あっただろう

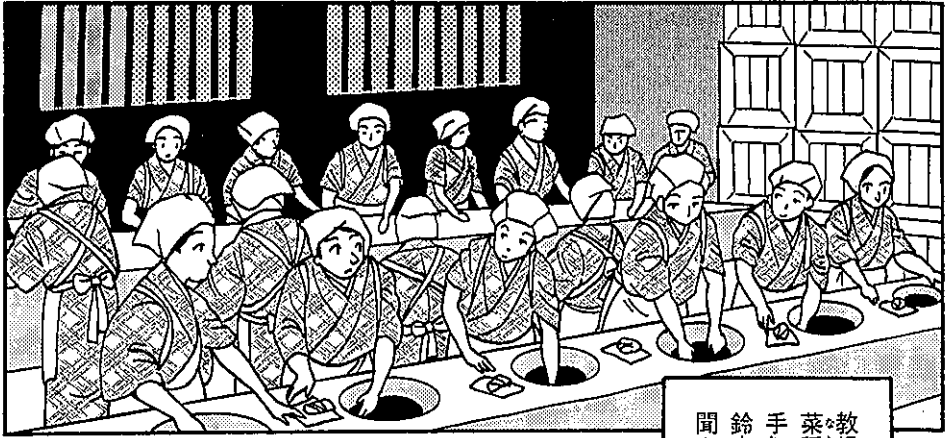


わたしが
お父さまの
お手伝い!?



そうか!
それは
喜ばしい
ことだ!!

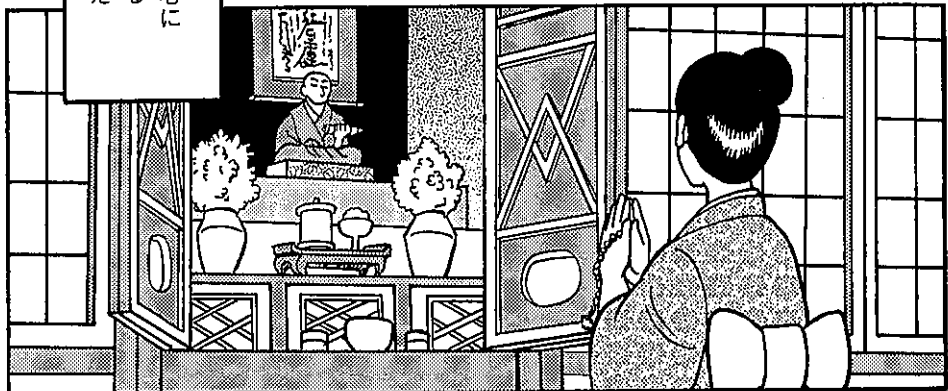
わかりました!
お手伝いさせて
いただきます



教祖さまは家業の
菜種油搾取と織布を
手伝いながらも
鈴木キセの法話を
聞きに大垣へ行き



菩提寺で一心に
題目を唱える
日々を送った



そんなある日
濃尾地方を
災害がおそった



なんだ!?

な……

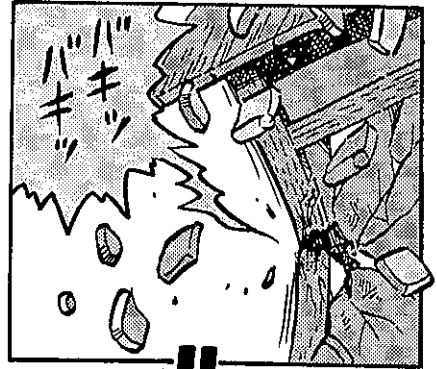
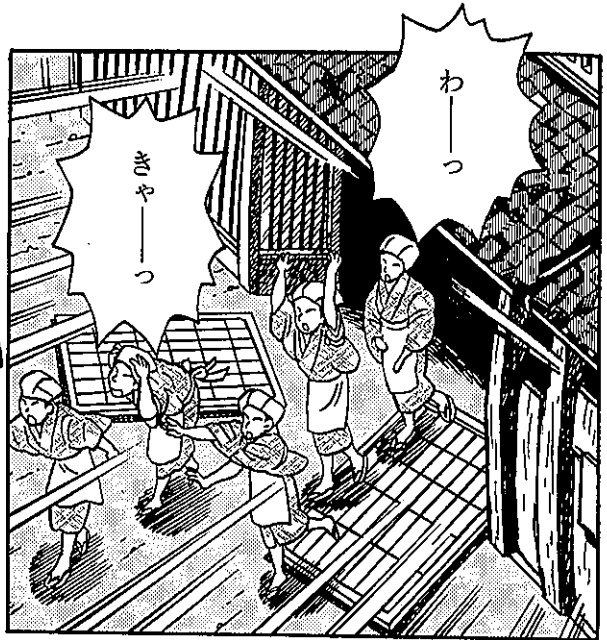
明治二十四年
(一八九一)
濃尾大地震である

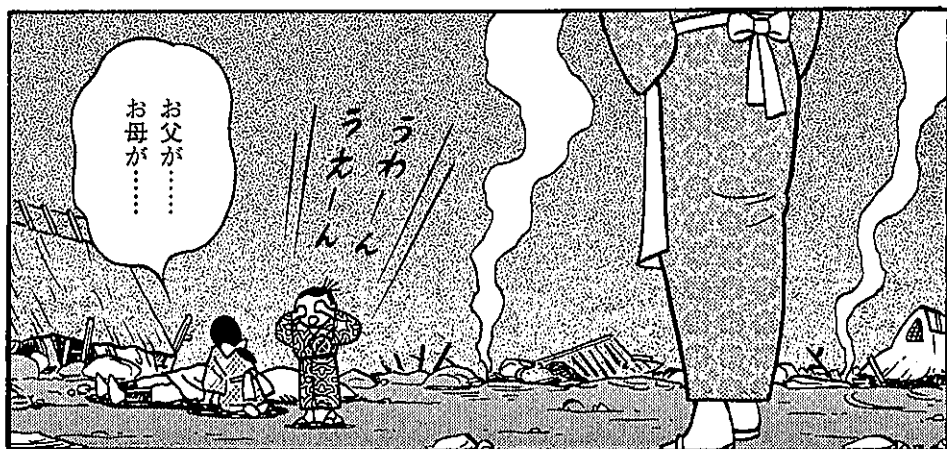
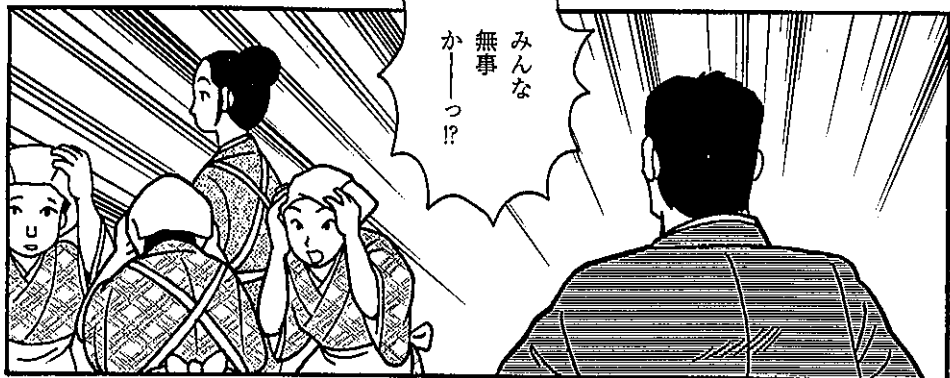


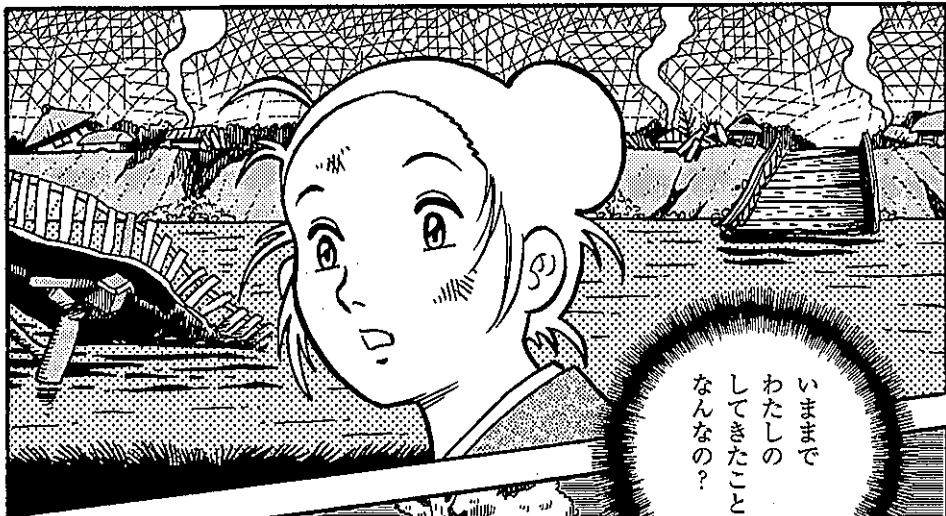
地震だ!
表に出る!!

なかにいると
天井が落ちて
くるぞーっ!!

えーっ!!



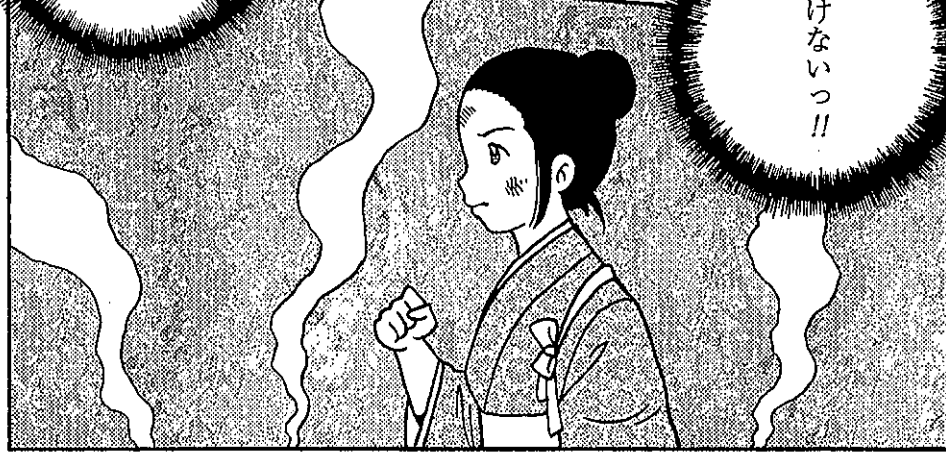




いままで
わたしの
してきたことは
なんなの？



こんなことじゃ
いけないっ！



いけないっ！！

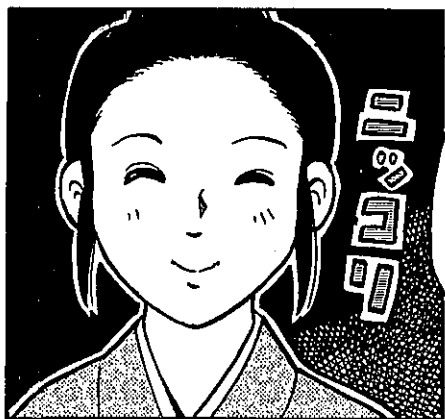
わたしが
求めているのは
激動するいまの世で
人びとはどう生きたら
いいかということ……

このまえの地震で
たくさんの方が
亡くなりました

でも鈴木先生は
昔ながらの考えで
いまの世の中を
割り切ろうと
なされている

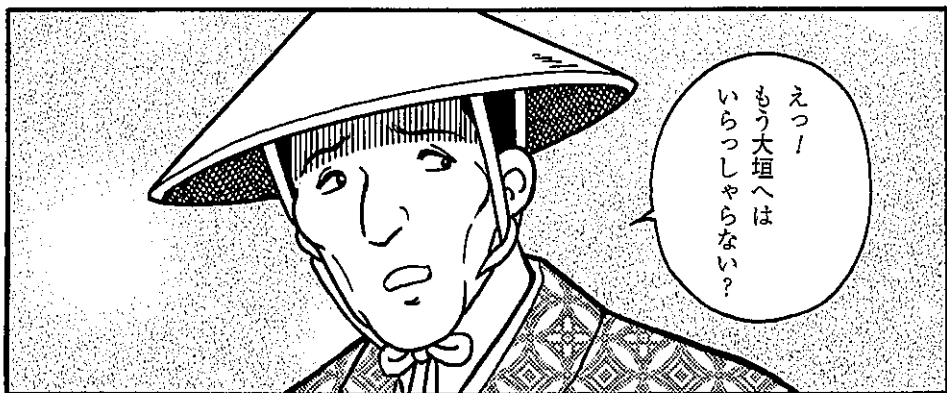
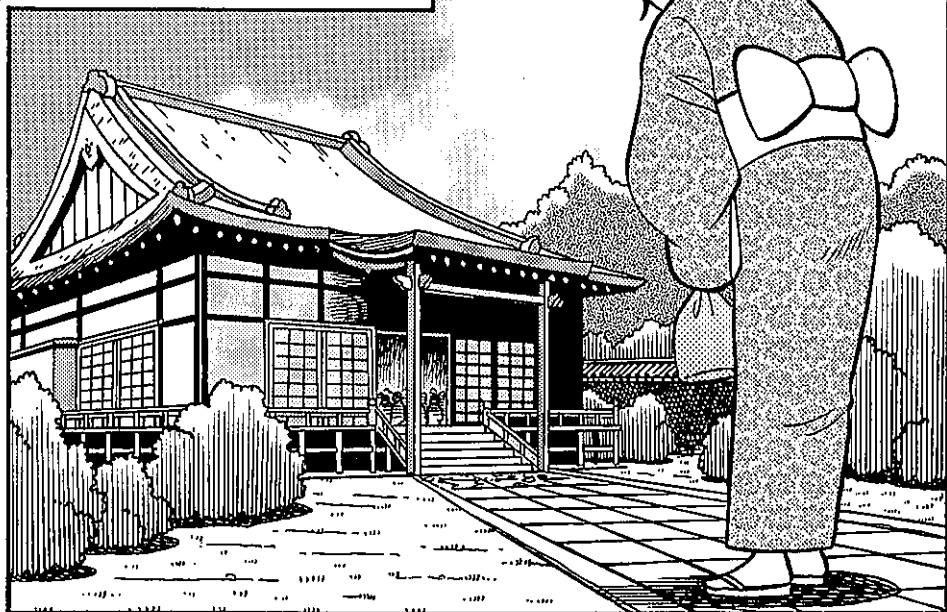
でもそれは
前世の宿業で
しかたのない
ことなんです

もの足りない
……
わたしの
求めているものは
ここにはない



いままで
ありがとう
ございました

鈴木先生からは
たくさんいろいろな
ことを教えて
いただきました



えっ！
もう大垣へは
いらつしやらない？

こうやって
船から
見る風景も

見納めに
なるわね

これまで
ありがとう
ずいぶん
お世話に
なつたわ

とんでも
ありません
お嬢さま

